

現地審査に基づく認証評価

東京都武蔵村山市岸の千年村認証について、2019年9月29日（日）に行った現地確認（千年村プロジェクト確認員：中谷礼仁・土居浩・松木直人・木下剛）を別紙のとおり行った。それを踏まえて、以下のように評価する。

1. 全体評価

- ・ 青梅街道以北に古くからの集落が展開し、住居の建て替えや宅地開発を受け入れつつ、狭山丘陵を背景とする旧集落の面影が残されている。一方、青梅街道以南の原野を開墾して、人口の自然増および社会増に対応してきた。
- ・ こうした人口の社会増に対して、新旧住民の交流と災害時の住民連携を促すために、「岸屋号マップ」が制作されるなど、古くからの慣習を大切にしつつ地域社会のまとまりを維持しようとする取り組みが確認できる。
- ・ 農業は現在の主たる産業ではなくなっているが、別大字となった多摩開墾に今でも土地を所有し農耕を続けている岸住民は多い。また、狭山丘陵の谷戸に再生された「山の田んぼ（岸田んぼ）」では、都市公園というシステムの中で農耕が継続されている。
- ・ 産業廃棄物の置き場となっていた「山の田んぼ」の再生は、狭山丘陵の公園化（東京都の公園行政）と一般公募された公園ボランティアに加え、地元農家の有志で結成された「岸田んぼ会」が協働して実現した。また狭山丘陵の公園化が、かつての里山のような環境を保全・再生する性格をより強めていったのは、この地域で活動する市民団体（「武蔵丘村山自然に学ぶ会」等）の働きかけによるところが大きい。
- ・ 地域の価値を再発見した地域外の人々とその価値を共有する地域住民が協働し、外挿された都市公園というシステムを再構成することで、ヤマと地域社会の関係が回復されつつある。地域外の関係者も積極的に組み込んだ、新しい地域経営の手法が模索されているといえる。
- ・ その確立は今後の課題であるが、千年村認証がこれを後押しできる可能性がある。岸自治会では、千年村認証とその継続への合意が得られており、こうした地域の積極性や地域への理解が千年村認証を通じてより深まることが期待できる。

2. 認証評価

以上より、武蔵村山市岸を千年村として認証することは適当と判断する。なお認証の範囲は別図のとおりとする。